

8農総試第94-7号
令和8年10月5日

関係各位

愛知県農業総合試験場長

病虫害発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和8年度病虫害発生予報第7号（10月）

令和8年度病虫害発生予察特殊報第3号

令和8年度病虫害発生予察注意報第9号

担当 環境基盤研究部病虫害防除室
電話 0561-41-9513
ファックス 0561-63-7820

令和8年度病虫害発生予報第7号（10月）

令和8年10月5日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ダイズ	吸実性カメムシ類	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 9月下旬の水田におけるミナミアオカメムシの発生量は平年並 10月の気温は高い	＋ ± ＋

・防除対策

〔ダイズ・吸実性カメムシ類〕

9月2日発表の「令和8年度病虫害発生予察注意報第7号（ダイズ、吸実性カメムシ類）」を参照してください。

・留意事項

県内4か所のダイズほ場に設置したフェロモントラップにおいて、ハスモンヨトウの誘殺数は安城市及び西尾市で多い状況です。名古屋地方気象台10月1日発表の1か月予報では、向こう1か月の気温が高いと見込まれ、チョウ目害虫の発生に好適な条件が続くと予想されます。ほ場全体を注意して見回り、発生を確認したら、適宜防除を行いましょう。

また、西尾市のダイズほ場に設置したフェロモントラップにおいて、オオタバコガ及び

シロイチモジヨトウの誘殺数が多い状況です。詳細は、本日発表の「オオタバコガ情報第3号（野菜類、花き類、ダイズ）」及び「シロイチモジヨトウ情報第2号（野菜類、花き類、ダイズ）」を参照してください。

ニカメイガや、イネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカは、水田畦畔の雑草や水稻の刈り株等で越冬します。また、イネ白葉枯病の病原菌は、被害わら、もみ、畦畔の多年生イネ科雑草等で越冬し、次作の伝染源となります。越冬量を減らすため、水稻の収穫後の耕うんを始めとする秋期管理を実施しましょう。詳細は、本日発表の「水稻の秋期管理情報第1号」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナシ	黒星病	平年並	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない 9月の降水量は多かった 10月の降水量は平年並か少ない	－ ＋ ±～－
カキ	炭疽病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量が多い 10月の降水量は平年並か少ない	＋ ±～－
カキ ウンシュウミカン	カメムシ類	多い	県全域	予察灯における誘殺数が多い フェロモントラップにおける誘殺数が多い 9月下旬のカキにおける被害果率は高い 10月の気温は高い	＋ ＋ ＋ ＋

・防除対策

〔カキ・炭疽病〕

ナリアWDGやスコア顆粒水和剤などで防除するとともに、被害果は取り除きましょう。農薬散布の際は、収穫前日数や周囲の状況に十分に注意しましょう。

〔カキ、ウンシュウミカン・カメムシ類〕

本日発表の「令和8年度病害虫発生予察注意報第9号」を参照して下さい。

・留意事項

ブドウべと病が多発しています。次作への伝染源を減らすため、落葉をほ場外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

モモせん孔細菌病の発病葉が目立つほ場があります。次作への伝染源を減らすため、秋期防除を実施しましょう。

モモ園でクビアカツヤカミキリの被害が拡大しています。被害樹からは、フラス（幼虫のフンと木くず、樹液等が混ざったもの）が排出されます。5月18日発表の「クビアカツヤカミキリ情報第1号」を参考に、ほ場をよく観察し、フラスを確認した場合は幼虫を対象に防除を行いましょう。クビアカツヤカミキリを確認していない地域で幼虫の被害（フラス）を確認した場合は、農業総合試験場病害虫防除室もしくはお近くの農業改良普及課に連絡をお願いします。また、ウェブページ「あいち病害虫情報」に本日掲載のチラシ「クビアカツヤカミキリがモモやウメを狙っている！被害防止のために早期対策が重要です」も参考にしてください。なお、クビアカツヤカミキリは特定外来生物に指定されているため、飼育や生きたままの運搬などは禁止されています。

野菜

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ハクサイ	べと病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の降水量は平年並か少ない	± ±～－
	アブラムシ類	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
キャベツ	黒腐病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の降水量は平年並か少ない	± ±～－
	オオタバコガ	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数はやや多い 10月の気温は高い	± ＋ ＋
	シロイチモジ ヨトウ	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない フェロモントラップにおける誘 殺数はやや多い 10月の気温は高い	－ ＋ ＋
ハクサイ キャベツ	コナガ	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	± ±
	ハイマダラノ メイガ	平年並	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない 10月の気温は高い	－ ＋
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	すすかび病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	黄化葉巻病	平年並	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない 10月のコナジラミ類の予想発生 量はやや多い	－ ＋
	コナジラミ類	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の気温は高い	± ＋
イチゴ (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	炭疽病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 7月下旬の育苗ほでの発生量は 平年並 10月の気温は高い	± ± ＋
	ハダニ類	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の気温は高い	± ＋
野菜共通	ハスモンヨト ウ	やや多い	県全域	9月下旬のキャベツにおける発 生量は平年並 9月下旬のダイズにおける発生 量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 10月の気温は高い	± ± ± ＋

・防除対策

〔キャベツ・オオタバコガ〕

ディアナSC、ヨーバルフロアブルなどで防除しましょう。本日発表の「オオタバコガ情報第3号」も参考にしてください。

〔キャベツ・シロイチモジヨトウ〕

アニキ乳剤、スピノエース顆粒水和剤などで防除しましょう。本日発表の「シロイチモジヨトウ情報第2号」も参考にしてください。

〔トマト・コナジラミ類〕

コルト顆粒水和剤やアニキ乳剤などで防除しましょう。訪花昆虫を利用する場合は影響日数に注意して薬剤を選定しましょう。

〔イチゴ・炭疽病〕

発病株や周辺株は速やかに抜き取って、ほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。ベルクートフロアブルなどを用いて防除しましょう。

〔イチゴ・ハダニ類〕

9月2日発表の令和8年度病害虫発生予察注意報第8号を参照してください。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

中齢以降の幼虫は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期に防除しましょう。

・留意事項

アブラナ科野菜の黒腐病、軟腐病等の細菌性病害は、降水量が多いと発生が増加します。また、植物体の傷は病原菌の侵入口となるので、激しい風雨によって傷ができた場合や、害虫の食害痕が多い場合も発生を助長します。台風等の悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布するとともに、水はけの悪いほ場では排水対策をしましょう。

ブロッコリー、キャベツの黒すす病について、近年、特に11～12月の発生が問題となっています。本病は降雨及び強風により発生が助長され、発病適温は20～25℃程度とされることから、今後の気温が高めに推移した場合は特に注意が必要です。また、本病は下位葉から上位葉や花蕾へ伝染し、一度発生が拡大すると防除が困難となるため、早期発見に努め、病徴が進行した株は処分しましょう。なお、一部系統の殺菌剤に対して感受性が低い菌株を確認していることから、薬剤選択は指導機関に相談しましょう。

トマトキバガ（トマト、ミニトマト）について、過去2年に実施したフェロモントラップによる調査では、秋頃に成虫の誘殺数が増加する傾向でした。このため、ほ場をよく確認し、発生状況の把握に努めましょう。また、施設開口部に防虫ネット（目合0.4mm以下）を設置して施設内侵入を防ぐとともに、定期的に農薬による防除を行いましょう。なお、農薬の感受性低下を防ぐため、異なる系統の農薬をローテーション散布しましょう。

【キャベツ、ブロッコリー等のテンサイシストセンチュウ（Hs）まん延防止】

東三河地域の一部のキャベツほ場でHsの発生が確認されています。Hsは農機具等に付着した土壌により移動します。作業後は、ほ場内で農機具等に付いた土をしっかりと落とし、Hsのまん延防止に努めてください。

また、坪状に生育不良が見られる等、Hsの発生が疑われる場合は、最寄りの農業改良普及課もしくは農業総合試験場病害虫防除室へ御連絡をお願いします。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	野菜類のフェロモントラップにおける誘殺数は平年並 10月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 10月の気温は高い	+

・防除対策

〔キク（露地）・ハスモンヨトウ〕

グレーシア乳剤、アニキ乳剤などで防除しましょう。

〔キク（露地）・オオタバコガ〕

グレーシア乳剤、アニキ乳剤などで防除しましょう。本日発表の「オオタバコガ情報第3号」も参考にしてください。

・留意事項

東三河地域の施設キクほ場で、キク小斑点病の発生が本県で初めて確認されました。詳細は本日発表の令和8年度病害虫発生予察特殊報第3号を参照してください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ウェブページ「あいち病害虫情報」（<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台 10月1日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：30% 高い：60%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：30% 多い：50%